

教会と音楽セミナー 第4回

北ドイツ音楽紀行 ～リュューベックからベルリンまで～

第4回は“バロック”を随所で散見できる北ドイツの魅力に迫ります。

北ドイツと旧東ドイツ圏は、近世に特に有名な音楽家たちを輩出した地域です。バッハ、ヘンデル、テレマンといったバロック音楽の巨匠たちが活躍しました。リュューベックとハンブルクは交易で栄えた港街。貿易商をはじめとする裕福な市民たちが文化の担い手となりました。「北ドイツオルガン楽派」と呼ばれる、プロテスタント（ルター派）教会のオルガニストたちの活躍が目覚ましく、多くの教会に残る歴史的なパイプオルガンも見どころの一つです。

プロイセン王国の宮廷のあったベルリンでは、自らもフルートの名手であったフリードリヒ2世などの啓蒙君主の庇護のもと、華やかな宮廷音楽が育まれました。ヴァイオリン、フルート、チェンバロなどの楽器を使った室内楽や、祝典のための音楽などが聴きどころです。



今回も、現地を旅するように、当時のドイツを偲んでみましょう！

第4回は、バロック音楽の巨匠たちが活躍した北ドイツから！

- ◎ 日時： 2018年7月7日(土) 10:30～12:30 (2時間)
- ◎ 場所： Space 415 (JR・メトロ中野駅より徒歩12分)
- ◎ 講座内容：

1： リューベック

- ・ 歴史的オルガンを訪ねてーオルガンの構造と音楽をさぐる
- ・ J.S.バッハが400キロ歩いて(!)訪ねた聖マリエン教会
- ・ 400年前の姿をとどめる聖ヤコビ教会の「燕の巣」オルガン 他

2： ハンブルク

- ・ 五大教会と錚々たる音楽家たちの活躍
- ・ バッハの次男C.P.E.バッハが活躍した聖ミハエリス教会
- ・ ヘンデル、テレマンが活躍した「鷲鳥市場」のオペラ劇場 他

3： ベルリン

- ・ フリードリヒ大王に仕えた音楽家たち
- ・ 18世紀の君主はなぜフルートを好んだのか
- ・ シャルロッテンブルク城に残る柿右衛門柄のチェンバロ 他



- ◎ 講師： 渡邊 温子 (チェンバロ奏者 武蔵野学院大学・大学院非常勤講師)



国立音楽大学、ドイツ・ヴェルツブルグ音楽大学卒。有田千代子、グレン・ウィルソン諸氏に師事。'02年より3年間ワシントンDCに滞在、アメリカ古楽界を牽引する演奏家と共演。現在は演奏活動とともにメールマガジン「月刊バロック通信」や市民講座を通じて古楽の魅力を広める。'16年7月『古楽でめぐるヨーロッパの古都』を上梓。
 武蔵野学院大学・大学院非常勤講師。タニタ楽器音楽教室チェンバロ科講師。日本チェンバロ協会会員。
 ブログ：チェンバロ弾きのひとりごと



- ◎ 参加対象： 高校生以上
- ◎ 参加費用： お一人様 3,500円 (税込み)
 ペア割引・お二人様 7,000円 → 6,500円 (税込み)
 ※事前予約・お振込み必要 ※高校生・大学生も同一料金
- ◎ 申込締切： 7月4日(水)お振込み到着分まで
- ◎ キャンセル規定： 3日前50%、前々日80%、前日および当日100%
- ◎ 最少催行人数： 8名様 (最大20名様まで)
- ◎ お申込・お問合せ： 株式会社アイ・ティ・エス (i Travel Square)
 website: <http://i-travel-square.tokyo/seminar/church-music/>
 email: info@i-travel-square.tokyo tel: 03-6706-4700

街角から古の響きが聞こえてくる——
 400年前の建築
 西洋音楽が流し、聖歌の自や曲が街に響かされた時代へ、
 歴史と音楽がよみがえり、チェンバロの音が、
 現代の街に響かせる。その瞬間に、

1C 定価：本体2200円税別 (送料別)